

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0970101424		
法人名	有限会社 シルバーケアサービス		
事業所名	グループホーム 寿楽舎番館		
所在地	栃木県宇都宮市鶴田町2854番地 (電話)028-614-1771		
自己評価作成日	平成24年 1月12日	評価結果市町村受理日	平成24年 2月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成24年 1月24日	評価確定日	平成24年 2月 2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

宇都宮市中央公園の南に位置する閑静な住宅街にあり、天気の良い日には、ゆっくりと散歩をしている。フレンドグループの1企業として、(株)フレンドと連携を図り、毎月1回の勉強会に参加し、質の向上に努めている。在宅医療に力を注いでいる主治医の協力がある。訪問看護と24時間医療連携が取れている。福祉車両を備え、車椅子の方でも負担なく外出できる。年1回の家族と共に行く一泊温泉旅行を企画している。自治会にも参加したり、当初より飼っている犬に会いに来る近隣の方の訪問も多いなど近隣と良好な関係を築いている。利用者様の個々の願いを叶えられるようにしている。(家族の家に日中だけでも遊びに行きたいとの事で送り迎えをしている)季節の行事を大切に餅つきなどは家族と近所の方も参加してくれる。また七夕の竹は入居者の家において入居者の方数人で邪魔し竹を頂きに行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

2001年に開設し、中央公園の南側の閑静な住宅街に位置する宇都宮で最初のグループホームです。自分達が生活したくなるホームを目指し、一緒に楽しくを理念に掲げた運営を行い、入居者・家族や地域との信頼関係を築いてきている。2007年からは多くの介護施設を経営するフレンドグループの傘下に入り、グループ内の研修への参加機会なども得られるようになり、職員のレベラアップも図られている。事業所は自治会での班長経験もあり、運営推進会議や防災訓練には近隣の住民の参加がある。更に今震災では近隣住民が様子見にきてくれるなど地域としっかり連携出来ている。在宅医療を重点に行うかかりつけ医の毎週の往診や、訪問看護ステーションと連携して24時間対応可能な医療連携体制が入居者・家族の安心に繋がると共に、看取りの対応も可能で家族に感謝されている。入居後笑顔が見られるようになったなどの家族の声もあり、理念の実践である最後まで一緒にという姿勢が貫かれている事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にゆっくりと楽しくをモットーに、地域の方々との関わり合いを持ちながら、毎日笑顔で過ごせるように」をテーマに全職員の思いを込めた理念をかかげ、実践に繋げるよう毎朝唱えて確認し、勤務に就いている。	「自分達が生活したいホーム」を目指した設立時の思いを理念に表し、日々の支援における心の拠り所になっている。利用者にとって一刻一刻が有意義な時間になるよう、共に過ごすことを大切に位置付け、共有を図るため具体的な行動指針も設定し、実践に繋げている。	設立から10年以上を経て、設立当時の思いを知る職員が少なくなっていると思われます。職員会議などで理念について話し合うなど共有を図り、常に立ち返る原点に位置付けられるような取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一員として交流している。寿楽のお知らせ等も自治会の回覧板に回してもらい、事業所の理解を深めてもらうようにしている。運営推進会議には、地域の方々が毎回参加して活発な意見を下さる。	開設して10年以上経過し、自治会の班長経験や地域の運動会には毎年招待を受けるなど、地域に溶け込んでいる。隣組の住人は運営推進会議に積極的に参加したり、餅つきなどの行事は楽しみに参加している。今震災時は様子を見に来てくれたり、散歩の途中に寄って行くなど日常的な交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、地域包括支援センターの方に認知症について講演して頂き、地域の方にも認知症に対する理解をしてもらう取り組みなどを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、地域の方の参加により活発な意見が出て話し合い、サービス向上に活かしている。避難訓練にも参加していただき、災害時の対応についても話し合いました。	入居者・家族、近隣住民、民生委員、地域包括支援センターなどの参加のもと、ほぼ2ヶ月に一回の割合で開催されている。議題の取り上げ方などに苦勞し、定期開催が課題となっていたが、ほぼ達成出来るところまで来ている。避難訓練についての議題なども取り上げ、サービス向上に繋がりがつある。	課題を克服しながら、年6回開催の実現に向けた取り組みは評価できます。次のステップとして、サービス向上に繋がる有意義な話し合いの場にしていくために、事業所からの課題提起に対し、委員から意見提案を募る双方向型の会議にしていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催の研修に必ず参加している。市の担当者に利用者の状況を説明し、理解を求めている。特に入退院等に関しての報告や相談をし、連携をとっている。	報告などの定例的な担当訪問の時も、単に報告のみでなく、入居者の個々の状況報告や、懸案課題などについて相談し、アドバイスをもらうなど連絡を密にしている。市主催の研修会には積極的に参加し、情報収集に努めると共に協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加している。利用者の個々の願いに応えられるようスタッフの配置をしており、スタッフ間で業務がスムーズに流れるよう気をつけている。玄関は構造上、急なスロープな為施錠し安全を確保している。	マニュアルを備え、法人の研修には必ず参加して、身体拘束をしないケアに努めている。帰宅願望のある入居者には、落ち着きを取り戻すまで一緒に散歩をするなど対応している。安全のため玄関とベランダからのスロープにセンサーを付け、出入り確認が難しいため、玄関に通じるドアには施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの周知・徹底し常に意識付けをしている。スタッフ同士が注意して、声掛けや対応に気をつけている。スタッフ同士も何でも相談しあってメンタルケアを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が事業所のスタッフに内容を伝えて周知させるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。また、不明な点がある時はその都度聞いて頂けるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議・行事(旅行等)に参加して頂いた時に、意見や希望を自由に発言できる状況を作るよう配慮している。	運営推進会議での発言の機会に加え、面会時や行事での来訪時などでも積極的に話す機会を作り、意見収集に努めている。新しい入居者の精神的な落ち着きに関する話など、親身になって対応しながら、入居者・家族の安心に繋げている。入居後笑顔が見られるようになったなど家族の声が得られた例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聴く体制を作りいつでも、話しやすい状況をもっている。また、一年に一度(希望時)上司と面談を設けている。	日常的に話易い雰囲気作りを心掛けると共に、月例の職員会議では積極的に発言を求め、意見収集に努めている。更に個人面談で一步踏み込んだ思いや悩みを聴く機会もあり、風通しの良い職場作りを心掛けている。季節の行事をもっと大切にという職員の意見があり運営に活かされているなどの例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状況に応じ希望を取り入れ、無理のない勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回社内研修が本社であり全スタッフが順番に参加している。参加後は職員会議のときに研修内容を報告して、全スタッフに徹底している。また、職員会議では全スタッフが順番に議題を決め勉強し発表する場面を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、定例会へ参加して、情報交換やケアの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学や病院等に訪問して、入居前に何度か顔を合わせ、関係作りをしている。面接は十分に行い、本人・家族の意向を聴きながら安心して過ごせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や現在困っている事を良く聴き、納得してから入居して頂いている。ご利用者様とご家族様も良い関係が築けられるように気をつけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様とご家族様の要望を聴き、グループホームの入居が最適なのか見極めてサービスに努めている。また担当ケアマネやソーシャルワーカーの意見も聴いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様を人生の先輩として敬い、それぞれの出来る事・希望される事を汲み取り、役割もって生き生きとした生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の様子を随時家族に報告すると共に、家族の方にも協力していただきながら共に支援するように、相談や助言などもしている。また、ホームでの様子の写真などを一緒に見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の訪問以外にも親戚の方や友達にも面会に来ていただいている。お正月やお盆には家族に声掛けをして、外出や外泊をすすめている。また、移動手段が困難な方で希望の方はスタッフが送り迎えして帰宅されることもある。	家族や、馴染みの知人などの来訪時には対応の手助けや、再来訪をお願いするなど支援している。更に姉妹などを訪問するのに状況に応じて送迎の支援などもしている。盆や正月には一時帰宅や、外出で一緒に過ごせる機会を持てるよう家族にもお願いもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じてスタッフが間に入り、ご利用者様同士が良い関係が作れるよう支援している。また、無理なくみんなで楽しく過ごせるようなレクリエーションの声掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方との交流は基本的にないが、自治会の行事等でご家族様に会うことはある。また、以前入居していた親戚の方が近所にいる為、運営推進会議に参加してくれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションを通して希望や意向の把握に努めている。ご家族との聴き取り等も参考にしてサービスを行っている。	理念である一緒に楽しく時間を過ごすことにより、希望や意向の把握に努めている。入居期間が3年以上の入居者と1年未満の入居者がほぼ半々の構成という特徴があるが、入居者の個性に応じた信頼関係を作るべく心掛け、意向や希望を聴き出せるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族からの聴き取り又、ご利用者様の日常の会話の中で気づいた情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日常の生活・動作・表情を観察し心身の状態を把握し個々にあったペースで生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議のサービス担当者会議の中で意見を出し合って介護計画を進めている。また主治医の往診時ご家族にも立ち会っていただきドクターや看護師・ご家族の意見も反映している。	日々の支援を通して各職員が得た情報やアイデアを、月例の職員会議で総括し、この情報を踏まえて3、6カ月毎などに定例のモニタリングを行い、状況の把握と分析を行っている。更に、家族、担当医、看護師の意見も反映した再アセスメントを経て現状に即した介護計画の作成をし、本人家族の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で気づきや変化を個人記録に記入している。特記事項等は、日誌や申し送りノートを活用し全スタッフが共有し、ケアに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の個々のニーズに応じて、外出(買い物等)の支援、ご家族宅への訪問の送り迎えなど適宜対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の小学校の運動会・自治会の体育祭・敬老会への参加をしている。又、散歩時にはご近所の方と挨拶や会話等をしている。ホーム内の行事にもご近所の方に声掛けをして参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療を行っているひばりクリニックの高橋Drが主治医になり毎週金曜日に往診に来ていただいている。急変時には、訪問看護と24時間連携を図っておりDrにも報告され適切な医療が受けられる。ニーズにあった診察が必要なときは他の病院への紹介状も書いてくれる。	入居後、全員が在宅医療を中心に対応している協力医をかかりつけ医に変更している。毎週往診があり、1階と2階の入居者が隔週で診察を受け、家族の立ち会いもお願いしている。医療連携体制加算の指定も受けており、緊急時の対応や、24時間訪問看護の対応は本人・家族にとって大きな安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護「ここあ」と密に連携を図り協働している。急変時やターミナルケア等24時間対応をしてもらい指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ご家族様を交えて医師・看護師と相談や情報交換をして支援すると共に、医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望を聴き、Dr・看護師・ケアスタッフとの話し合いをもちご利用者様にとって一番良い方向を確認しながら支援をしている。看取り介護の指針も定め取り組んでいる。	終末期については、本人・家族の要望に応じた対応が可能であり、これまでに看取り経験もしてきている。事業所での対応が可能なることを明記した、看取りの指針も作成して、本人・家族との話し合いでの方針決定に有効に役立っている。看取りを希望した場合は主治医や24時間訪問看護と連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルがあり全スタッフに周知徹底し、いつでも対応できるよう意識付けしている。平成24年1月よりAEDを設置しました。全スタッフが研修を受ける予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を実施し意見や指導を受けている。又その際に、近所の方にも協力をして頂き避難訓練に参加をしてもらっている。運営推進会議でも議題にして話し合いをしました。	毎年2回、消防署の指導のもと防災訓練を実施しており、課題を明確にしながら避難誘導がよりスムーズになるよう取り組んでいる。5月の総合訓練には近隣住民の参加も得られた。2階からの避難経路が内部のやや急な階段しかないという課題があり、職員や応援の近隣住民などの役割を明確にし、消防署のアドバイスも得ながら安全確保に取り組んでいる。	2階からの避難については以前から課題となっていますが、効果的な対策がなされないまま現在に至っています。訓練などを通し、役割分担や手順の明確化などのソフト面での対応の限界を見極め、別途避難経路を考えるなどハード面での対応の検討を諦めないで、継続されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を大切に声掛けを心掛け、常に相手の立場に立って考えた介護が出来る様、業務に就く前に「スタッフとして」という6項目の心がけを唱えている。	プライバシーに配慮して尊厳ある生活を支えることが行動指針にあり、支援の心構えとして職員に浸透している。入居者個々人の個性に応じた対応が大切という認識で、職員で意見を出し合いながら職員毎の対応の一貫性に気を付け、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご利用者の変化に気付き、何を訴えているのかを察し、その方らしい生活を送れるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者主体の生活を送れる様に心掛け、個々のニーズに応えられる様に人員を配置し、職員会議では一人ひとりのその方らしい生活が出来る様話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には本人の希望の洋服を着てもらおうようにしている。意思の決定が出来ない方には、可能な限りご家族から本人の好みを引き出して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には食事作りやテーブル拭き・後片づけ等を手伝ってもらい、スタッフと一緒に食事を摂っていただいている。時には外出に出かけて気分を変えたり、おせち・恵方まき・花見・十五夜・・・など季節を感じるメニューで食事を楽しんでいただいている。	日常は業者から宅配される食材を職員が調理して提供し、入居者も簡単な調理やテーブル拭き、下膳など出来る範囲で手伝いをしている。職員も一緒にテーブルを囲み、会話をしながら食事を採っている。外食をしたり、おせちや節句の団子などの季節を演出する独自メニューは、食の変化をつけ、食べる楽しみの演出に役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取のチェックを行っている。献立については、食材の業者により栄養面・カロリーも管理されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを職員が付き添って行っている。夕食後、義歯の方はお預かりをして洗浄剤につけておく。必要に応じて訪問歯科の往診に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して個々の排泄パターンを把握して定時で声掛けトイレ誘導を行っている。出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄チェック表に基づく定時の声かけなどの支援を通して、自立排泄の支援を行っている。トイレでの排泄の大切さを認識した支援を行い、夜間はおむつの入居者もいるが、定時の声かけをして、出来る限りトイレやポータブルでの排泄をするよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を必ず付け排便状況の把握をしている。水分・食事摂取量・運動(散歩)等に気をつけて便秘の予防を心掛けている。また、訪問看護と連携を図り排便を調整していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴と特浴がある。個々の体調や希望も取り入れゆっくりと入浴して頂けるよう支援している。また、入浴剤入りやゆず湯など変化をつけて楽しんでいただいている。	半数づつ、一日おきに週3回の入浴を午後の時間帯に行っている。普通浴槽と、シフト座式の機械浴槽があり、入居者のADLに合わせて使い分けている。入浴剤を入れたり、冬にはゆず湯にするなど変化をつけ、時には気の合った仲間同士で入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者を尊重し、自発的に就寝できるようにしている。日中も身体状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は決められた所に保管し薬の情報と一緒に個別に収納している。症状の変化により投与方法等に変更が生じた場合は、申し送りノートに記入し全スタッフが把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に添った行事を行い、食事やおやつを通して季節の変化を楽しんでいただけるよう工夫をしている。また、ご利用者も一緒にお手伝いできる場所は協力していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの公園に散歩へ出かけたり、希望者は近くのスーパーに買い物に行ってもらったりしている。近所の方と出会った時は挨拶を交わし普通に会話が出来、地域の方と同じように生活を送っている。	近所の散歩や買い物などの日常的な外出支援を行うと共に、初詣や花見、体育祭見学など季節に応じた催しや、行事にも出来るだけ多くの入居者が出かけられるよう支援している。家族の参加も得ての1泊の温泉旅行は4年連続で行われ、入居者全員が参加し大変好評であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に買い物支援をしている。ご本人のお小遣いとして預かっているものから好みの物を購入していただいている。高額な物は家族と相談して一緒に外出するなどして、買い物をする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望がある時にはご家族に電話をして、会話が出来るように支援している。年賀状をご利用者と一緒に作成してご家族に出すような支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間には季節を感じられるよう、掲示物や飾り絵をご利用者と共に楽しみながら作成して張り出したり、散歩の時に季節の花を摘んでホールに飾ったりしている。常時室内の温度と湿度に気を遣い、快適に過ごせるようにしている。	旧社員寮を改修した建物で、スペース的なゆとりはないが、入居者同士や職員との距離感を感じさせないコンパクトさの利点を感じられる。日中は南向きで日当たりの良い居室で、大半の入居者がおしゃべりをしたり、カラオケなどを楽しみながら過ごしている。室温も適当で消毒も行き届き不快臭なども感じない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者間の相性に配慮した席を設け、気の合った方と穏やかに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者の使い慣れたもの・今まで使用してきた物を置くようにして安心して過ごしていただける環境づくりをしている。(鏡台や仏壇を居室に持ち込んでいる方もいる)	1階に4部屋、2階に5部屋の配置で、全て南側に面し、ベランダ付きになっている。ベッドと布団は全入居者がリースしているが、それ以外は各人思い出の品物を持ち込み、思い出の写真や自分の作品を飾り、居心地良く暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を案内する矢印や居室の表札など安心して自立した生活が送れるように整理している。見守りを重視したケアをしている。		